

停止する事もあります或る胚兒に於て一分間に百五十打つのを見ました此は停止致しました十秒間を除ひての事で御座ひますから鼓動の速度は随分早ひのです一分間の内には一般に五回の休息が御座ひます夫は一秒の事があります又二秒或は夫れ以上の事があります休息期の間は廿六回より卅六回の鼓動を致します。

●爬蟲類の分類に就て (第二回)

Henry Fairfield Osborn 著

田 中 茂 穂譯

Priority、化石上の發見は絶へず進みつゝありて、從來知れたる化石に加ふる處多くなりしを以て、種々の群類の名稱を廢し或は昇降せしむる必要あり之を例ふるに Osborn 氏の作りたる Cynodontia 科は亞目となり矢張同氏の Dicyodontia 及 Theriodontia 科は目となり同氏の Anomodontia 及 Dinosauria の兩目は亞目に降れり、從來諸學者の作れる群は今日の如き充分の智識なき時の者なれば、之れ等の名を今日も尙ほ襲用すとせば吾人は多くの新なる群名を作るの必要あるべく、そは決して取るべきの事

に非るべし、分類の歴史は諸解剖學者の公表せる種々の意見にて知るを得べく、讀者は種々の分類法を見て分類原理を熟知せば大に益ある事なるべし故に余は少しく此に就て述ぶることを試むべし、されどもその分類の法式には是非ある事に注意すべし。

不良なる分類法

外觀の類似 西曆千七百九十九年に公表せる Brogniart 氏の分類法にては、蜥蜴類と鱈魚類とは有肢なるより Saurii とし(今より考ふれば、固より誤れり)、他の物に比肩せしめ、次の如くなせり。

1. Chelonii.
2. Saurii.
3. Ophidii.

次で千八百二十年に Latreille 氏は有鱗なるの點より蜥蜴類と蛇類とを合して Squamosa とせるは正當の事と云ふべし、されども已に千八百十一年に Oppel 氏はこの兩者を Squamosa 中に入れたる事あり、而して此の事柄は、外皮の類似が諸他の基礎特性と一致せる異例なる者なり、

(463)

外皮が基礎特性と一致せざる爲めに、外皮よりの分類の誤れる者を述べれば Klein 氏は Testudinata 及 Crocodilia を Cataphracta 及び Merrem 氏は同じ二科を Loricata とせる事なり。

一個の外部器官の類似 有名なる化石學者 von Meyer 氏は、足の構造の異同より、爬蟲類を分類せんと試みたり、而して有肢爬蟲類なる Saurii を分て第一 Dactilopodes, (之は Lacertilia と Crocodilia とを包含す)、第二 Nexipodes (之は Ichthyosauria と Sauropterygia とを含む)、第三 Pachypodes (之は Iguanodontia と Megalosauria とを含む)、第四 Pterodactylini (之は Pterosaurus を含む) としたるも、固より不正當なる分類法なりと云ふべし。

適應上より相似の者を標準とせる分類 千八百二十五年に De Blainville 氏は Ichthyosauria と Sauropterygia とを Enaliosaurii 或は海蜥蜴類と呼びたり後 Owen 氏は Enaliosaurii 中に Ichthyopterygia と Sauropterygia とを包括せるも、氏は此等の諸動物は自然分類上正しく一群には非すと述べたり。

一個の内部器官を標準とせる分類 此の方法によれるは、(Lopez 氏を重なる者とし同氏は千八百六十九年に、Archosauria と Monimostylica (Miller 氏の作れる) とは Testudinata を除かば異なる者とし、頭部の方骨の縫合結合の頗る密接なるは、以て Testudinata の特徴なりとし、此によりて Sauropterygia, Crocodilia, Thecodontia, Dimosuria, Anomodontia, Rhynchocephalia を凡て合併せるも、是れ頗る不自然なる分類法なるべし、蓋し只一個の原始的性質なる頭部の方骨を所有せるに基きたればなり。上述説く處によりて稍明なるが如く、余の考ふる處を以てせば、爬蟲類を分類せんが爲めに、外部の性質、外部の器官、外部の適應如何、一個の内部器官、等による事は頗る不自然なりと云ふべし。

分類の標準

吾人は分類上三つの規則あるを見る、今之を逐次述べんに。

第一 Priority より考へて、先進の化石學者の分類せる者は、高等及下等の類を其儘に襲用したく欲するなり、さ

れども已むを得ずして變更する場合は仕方なしと知るべし、故に時としては、從來用ひ來れるよりも一層高等なる若くは下等なる類を新に置くの必要もあるべく、又部類中異なる位置に入れ換ふるの必要を見ることもあるべし、Priority は誤れる分類標準によれる時は價なき者なり、例へば Cope 氏の Theromorphia と Archosauria との説明の如し。

第二 系統發生上より之を見るに、是によれる分類は頗る正當なるものにして、只その不便とする處は、新しき事實及關係の發見せらるゝに應じて、在來の分類を變更し行かざるべからざるにあり、是の法によれる者は人々の知れる如く系統的樹枝の先きへくと分岐し行くに形取るものにして、分類の明なるに従ひその動物の祖先の形を推考し得るなり、例へば Hyacotherium は Cope 氏のなせる如く Lophiodontidae に屬せずして Equidae に屬するものなり。

第三 分類の實義より考ふれば、系統研究と同じく、種々の作用を持てる諸體部の性質を充分に理解し、之に基

きてなすべきものにして、分類の本義を誤らざらんが爲めに、平行類似、相近、類體等に迷わされざるを要するものなり。

右の三ヶ條の中一を缺けば、大に分類上差支を生ずべく、現に近年 George Baur 氏は爬蟲類分類を誤り一大混亂を起せり、されども Smith, Woodward, Broom, von Nopsca 等諸氏は相率ひて正當の分類に向はしめんと勤めつゝありき。

余の提出せんとする分類法

余は以上種々の原理に基き、先づ爬蟲類を Synapsida 及 Diapsida の二亞綱とし、後なるものゝ内最も原始的なるを總括して Diaptosauria とし、是は Squamata と Dinosauria とを含むものなり、今表記して次に示さば

Subclass Synapsida

Order Cotylosauria

Superorder Anomodontia.

Order Theriodontia.

Suborder Theroccephalia.

Suborder Gynodontia.

Order Dicynodontia.

Order Placodontia.

Order Sauropterygia.

Suborder Simosauria.

Suborder Plesiosauria.

Order Testudinata.

Suborder Pleurodira

Suborder Cryptodira.

Suborder Trionychia.

Subclass Diapsida.

Superorder Diaptosauria.

Order Procolophonia.

Order Protosauria.

Order Proganosauria.

Order Gnathodontia.

Order Pelycosauria.

Order Choristodera.

Order Rhynchocephalia.

Order Parasuchia.

Suborder Aëtosauria.

Suborder Phytosauria.

Order Ichthyosauria.

Order Crocodylia.

Suborder Mesosuchia.

Suborder Eusuchia.

Suborder Thalattosuchia.

Superorder Dinosauria.

Order Theropoda.

Suborder Megalosauria.

Suborder Symphyypoda.

Order Opisthocoeilia.

Order Orthopoda.

Superorder Squamata.

Order Lacertilia.

Order Mosasauria.

(465)

綱 目

Order Ophidia.

Order Pterosauria.

結 論

尙此の分類に就ては、Procolophoninaは Broom 氏により、Choristoderaは Brown 氏により、Parasuchiaは Mc Grew 氏により研究せられつゝあれば、日ならずして是れ等の發表せらるゝあらば、爬蟲分類の研究は益明に容易に解せらるゝべし。

鳥の起源 鳥は Diapsauria より起りたるべく、此れは亦 Dinosauria の先祖なるが如し、而して鳥は Dinosauria より發生せせして、實に此の兩者は共同の一先祖より發生したるものならん。

哺乳類の先祖 哺乳類は Diapsida よりも寧ろ Synapsida に近きが如し、そは頭骨、肩帶及指式皆後者に近きを以てなり。

親近の度より考ふれば、哺乳類は寧ろ Anomodontia 及 Cynodontia 或は Theriodontia に近きが如し、哺乳類諸屬の或る爬蟲類より起りて分生したることは、南亞非利

加のバミアン又は下三疊紀に起りたるが如し、而して實に Broom 氏は南亞非利加のカルー床より Karoomys と稱する哺乳類の類と思はるゝものを報告したり。

(完)

●秋田市に於ける食用の魚介類(承前)

在秋田 德淵永治郎

(五)たい又おほだひ(秋田稱呼)

Pagrus japonica T. & S.

本縣の近海に於ては周年多少漁獲せらるれども九、十月は殊に多し其一尺四五寸のものは時價一圓内外なり通常鳥賊を魚餌となして釣る其稚魚を土俗タイゴと呼び主に六七月の頃南秋田郡男鹿半島及新屋濱に於て手繰網にて捕ふ而して別に小鯛と稱して魚坊に出し又鬻ぐものあり其産區漁法はタイゴに均し間々七八月頃おほだひと共に青森より來る魚家の辯ずるところによれば小鯛は其生育充分なるものにて體長六七寸に過ぎず且頭部彎曲の度と眼球の大小等によりて彼のタイゴに比し異なり故に同種に非らずとなす然れども兩者を比較對照せしに其差別の